

●第149号(二〇〇二年三月)  
特集・都市の暮らしやすさ

1 これからの暮らしやすさを考える

——横浜市民生活白書を読んで

①人口動態から見る都市の暮らしやすさ——大江守之  
②成熟社会における既存資源の活用——公園・緑地を  
中心に——進士五十八

③市民の暮らしやすさを支える交通体系——中村文彦  
④横浜の働きやすさ——構造変化を伴いつつも充実す  
る横浜の都市機能——河合良介

⑤横浜の家族の変化と子育て——高齢者介護  
——おち とよこ

⑥横浜の地域社会と市民が創る暮らしやすさ  
——名和田是彦

⑦横浜のランドスケープと丘陵崖都市の幸せと不幸  
——岸 由二

2 暮らしやすさを表現する方法——暮らしやすさ指標

①世界の都市の暮らしやすさ、働きやすさ——編集部  
②市民生活の多様性と暮らしやすさ——市民生活行動  
調査から——編集部

③GISで表現する横浜の暮らしやすさ——入江佳久

④市民の声に見る横浜の暮らしやすさ——関本利恵子  
——編集部

⑤市民の暮らしやすさを高めるために  
——横浜の暮らしやすさを高めるために

①利便性とうるおいが両立する街を目指して  
——利便性・うるおいグループ

②安全・安心のまちづくり——安全・安心グループ

●第150号(二〇〇二年九月)

特集・大都市自治体改革の展望——成熟社会の自治体運営を  
考える

1 対談——大都市自治体改革のビジョン  
——金子 勝・中田 宏・司会 金田孝之

2 自治体経営と政策評価——協働の理念再考——山本 清  
参加から協働へ

①横浜のコミュニティ行政と市民活動の軌跡——149冊  
の調査季報から振り返る——編集部

②座談会——地域社会の変容とコーディネート型行政  
——横山 悠・鈴木 隆・大塚 宏  
海原逸子・内海 宏

③新しい自治体運営とこれからのコミュニティ行政  
——市民と行政の役割分担を考える——編集部

4 横浜市政の特徴と課題——都市経営の視点から  
——斎藤紀子

5 市役所の経営改革——福岡市DNA2002計画の挑戦  
——吉村慎一

6 巨大組織の活性化——改革のプロセスデザイン  
——柴田昌治

自主研究レポート——生涯学習支援施策の行政評価と生涯  
学習施設の経営改革——林 博己 他

●第151号(二〇〇二年十二月)

特集・自治体における政策研究

1 政策研究と政策評価のあり方  
——アメリカとの比較から——上野真城子

2 自治体における政策研究  
——横浜市における職員の発想を活かした政策研究——山口道昭

3 政策研究会からアントレプレナーシップ事業へ——  
——政策研究会からアントレプレナーシップ事業へ——山崎幹夫

4 政令指定都市における調査研究機能  
——新しい自治体シンクタンクの形成——編集部

5 横浜賀都市政策研究所の試み——竹内英樹

6 横浜市職員の調査・研究  
——技術開発を推進するための施策——田所俊弘

①横浜市衛生研究所の応募型調査研究及び  
課題持込型研修——沖津正樹

②環境科学研究所における調査研究と研究調整業務  
——古畑正孝

③パブリック・リレーションズの研究  
——区役所における広報広聴業務のあり方について  
——御園生智之・木村玲子・海老原佐江子

④横浜型コミュニティガーデンの展開について  
——平成12年度自主研究——河岸茂樹

⑤NTTドコモ法人営業本部における  
ナレッジ・マネジメント——平木浩司

⑥「あすなるの想い」HCスケッチ2  
——難病団体のアンケート調査結果から  
——加藤節子・飛鳥田まり・飛鳥田充

⑦「あすなるの想い」HCスケッチ2  
——難病団体のアンケート調査結果から  
——加藤節子・飛鳥田まり・飛鳥田充

⑧「あすなるの想い」HCスケッチ2  
——難病団体のアンケート調査結果から  
——加藤節子・飛鳥田まり・飛鳥田充

⑨「あすなるの想い」HCスケッチ2  
——難病団体のアンケート調査結果から  
——加藤節子・飛鳥田まり・飛鳥田充

⑩「あすなるの想い」HCスケッチ2  
——難病団体のアンケート調査結果から  
——加藤節子・飛鳥田まり・飛鳥田充

⑪「あすなるの想い」HCスケッチ2  
——難病団体のアンケート調査結果から  
——加藤節子・飛鳥田まり・飛鳥田充

⑫「あすなるの想い」HCスケッチ2  
——難病団体のアンケート調査結果から  
——加藤節子・飛鳥田まり・飛鳥田充

⑬「あすなるの想い」HCスケッチ2  
——難病団体のアンケート調査結果から  
——加藤節子・飛鳥田まり・飛鳥田充

⑭「あすなるの想い」HCスケッチ2  
——難病団体のアンケート調査結果から  
——加藤節子・飛鳥田まり・飛鳥田充

⑮「あすなるの想い」HCスケッチ2  
——難病団体のアンケート調査結果から  
——加藤節子・飛鳥田まり・飛鳥田充

⑯「あすなるの想い」HCスケッチ2  
——難病団体のアンケート調査結果から  
——加藤節子・飛鳥田まり・飛鳥田充

⑰「あすなるの想い」HCスケッチ2  
——難病団体のアンケート調査結果から  
——加藤節子・飛鳥田まり・飛鳥田充

⑱「あすなるの想い」HCスケッチ2  
——難病団体のアンケート調査結果から  
——加藤節子・飛鳥田まり・飛鳥田充

⑲「あすなるの想い」HCスケッチ2  
——難病団体のアンケート調査結果から  
——加藤節子・飛鳥田まり・飛鳥田充

⑳「あすなるの想い」HCスケッチ2  
——難病団体のアンケート調査結果から  
——加藤節子・飛鳥田まり・飛鳥田充

あとがき

横浜の市民力——例えば地域での市民活動——がどれだ  
け多彩で、力に満ちているかは、何年も前から、横浜  
市が発行する様々な媒体によって、繰り返し語られて  
きたことである。(もう一度、それを確認してみたい  
という読者は、是非、平成13年度に発行された「横浜  
市民生活白書」を読んで欲しい。)ただし、それとの  
協働に、横浜市政が自らの組織のありかたや仕事の  
進め方を根本的に変革することを前提に、本気で取り  
組み始めたのは、つい最近のことのように思う。だか  
ら市民と行政の協働ということについては、市民・N  
POにしてみれば満を持してということがあると思  
うし、逆に行政の職員にしてみれば、いまだ体制が整  
わない中で、戸惑いながら「剥き身」で仕事を進めて  
いくという側面があると思う。

そんな中で、この調査季報152号は、庁内横断的  
に協働の仕組みを考えようというプロジェクトを組んだ横  
浜市の職員と「協働のありかた研究会」に集まったN  
POのメンバーによる協働に向けた手探りの議論と実  
践の中から産み落とされたものである。

馬車道の市民活動共同オフィスや市役所での話し合  
いは、つねに深夜まで及び、それは、ファミレスでの議  
論や路上での立ち話しへとしばしば発展した。さら  
に、ネット上のメーリングリストの中で、協働に向けて  
の膨大な「問い」が発せられ、それに呼応したり、反発し  
たりする様々な言葉の渦に巻き込まれ、編集作業は  
遅々として進まなかった。それでも、行政とNPOの協  
働に向けての「本音」がぶつかり合い、スパークするコ  
アの部分を拾い集めて、何はともあれ、このような政策  
情報誌の形にすることができたのは、「協働」について  
は、お互いにビギナーだけれども、それぞれの分野の活  
動や仕事については、十二分に成熟した横浜のNPO  
や市職員の力量の確かさによるものだと思う。

企画局調査課として発行するのは最後となるこの調  
査季報が、「協働」とはこういうものだと決着してしま  
うのではなく、新たな「問い」を発火し、それを持続し、  
協働の議論と実践を、この都市・横浜の内にある多彩  
なフィールドの隅々まで野火のように広げて行くため  
の、火だねとして活用されることを願っている。

(関口)

# 152

2003年3月

## 調査季報

---

編集・発行  
横浜市企画局政策部調査課

---

〒231-0017 横浜市中区港町1-1  
tel.045-671-2029  
2003年3月31日発行

横浜市広報印刷物登録  
第140218号  
類別・分類A-BA011  
印刷／株式会社ガリバー

---

ISSN0387-8899

この印刷物は再生紙(古紙混入率70%)を使用しています